

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 教育相談と幼児理解 ナンバリング：2401	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：金子智栄子 担当形態：単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 幼児理解の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ <テーマ> 幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものであり、幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。そして、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。 <到達目標> 1. 幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解できる。 2. 幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解できる。 3. 学校における教育相談の意義と課題を理解できる。 4. 幼児の不応答や問題行動の意味並びに幼児の発するシグナルに気づき把握する方法を理解できる。			
授業の概要 幼稚園等における教育相談についての理論や実践的な体系について学び、子どもの発達や幼児期から思春期までの発達を見通した視点からの教育相談を進められるよう、幼児期の問題や課題などの事例を交えながら学んでいく。			
授業計画 第1回：保育者の行う教育相談の考え方 第2回：学校教育相談実践の歴史の変遷 第3回：相談実践の整理とその意義 第4回：隣接する学問や実践現場から学ぶ 第5回：日本における学校教育相談の実践整理 第6回：教育相談の進め方（1）教育相談実践の捉え方 第7回：教育相談の進め方（2）観察方法 第8回：教育相談の進め方（3）面接への視点 第9回：幼稚園における教育相談の考え方 第10回：幼児理解のために（1）子どもの発達 第11回：幼児理解のために（2）幼児期の問題・課題 第12回：実践例（1）保護者との信頼関係 第13回：実践例（2）保護者の養育力の向上 第14回：実践例（3）幼小連携の観点から考える 第15回：実践例（4）外部専門機関との連携 定期試験：筆記		授業時間外の学習 （予習・復習：1時間程度） ・図書館などを活用して、授業準備や調べ学習を行うこと。 ・教育相談に関する歴史的背景や変遷、カウンセリングに関する書籍等を読んでおく。 ・事前・事後学習で学んだことを必ずまとめておく。 ・授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れるので、自分の考えを述べられるように、日常から表現力を磨いておく。	
授業の方法 講義とグループワークを中心に授業をすすめる。小レポートをもとに討議し、講評する。			
テキスト 『教育相談とカウンセリングー子どもの発達理解を基盤としてー』金子智栄子(編著)樹村房 『保育者の力量を磨くーコンピテンス養成とストレス対処ー』金子智栄子(共著)ナカニシヤ出版			
参考書・参考資料等 適宜プリントを配布する。			
学生に対する評価 本授業の到達目標については試験（70%）によって評価し、学習意欲・自発的授業参加についてはリアクション・ペーパーや課題(30%)によって総合的に評価する。 ※教員と学生間の成績評価に関する認識を統一するためにルーブリックを活用する。			
履修上の注意 子どもの発達や成長を理解できるよう様々な文献等を活用し、事前・事後学習を行うこと。			
実務経験の有無	有	実務経験	スクールカウンセラー、臨床心理士
実務経験を活かした教育内容 相談経験を活かし、カウンセリング技法の習得をも予定している。			